

Japan Audio Society **JAS**
journal

(通巻361号)

2005 Vol. 45 No. 2/No. 3

(2・3月合併号)

¥1,313 (税込)

インターネット

<http://www.jas-audio.or.jp/>

- 6 JASインフォメーション
～平成16年度「音の匠」特別寄稿～
- 〈6〉 サラウンドとともに
- 〈12〉 デジタル放送における5.1chサラウンド番組制作
- 〈17〉 平成17年2月度理事会・運営会議の報告、ほか
- 18 ニュースダイジェスト
- 〈18〉 ヤマハ・デジタル・サウンド・プロジェクターYSP-1の商品開発
- 〈23〉 PCM音楽放送 ミュージックバード
- 27 イベントレポート
～JASコンファレンス2004予稿集～
- 〈27〉 高臨場感オーディオ研究の最新動向
- 〈36〉 「サラウンドを最良の環境で聴くために…！」
- 〈41〉 「SF-ネイチャー・サラウンド・サウンド・フィールド・マイクロホン・システム」の開発
- 49 メンバースプラザ
- 〈49〉 会員投稿：同期にGPS・室内照明を利用した1bit記録再生システム
- 〈54〉 新規法人会員紹介：アムトランス株式会社
- 〈56〉 自薦ソフト紹介
- 57 連載：科学の単位になった人々
第7回 テスラ
- 61 連載：テープ録音機物語
その6 ブラッソ社の録音機
- 68 法人会員一覧
- 72 JASコミュニケーション

生活を楽しむ道具としての科学

山崎 芳男

人とほかの動物との違いは、一つは道具を使うこと、もう一つは言葉、それも音声や音楽など音を使ってコミュニケーションを行う点である。わずか50年の間に3倍にもなった60億を越す人間が、地球に共存していく鍵はコミュニケーション、特に音によるコミュニケーションと省エネルギー自給自足社会の実現ではないかとVol.45, No.1に書かせていただいた。

現在、中東では争いが続きイスラム世界はわれわれと遠い存在ととらえられがちであるが、初期イスラムの科学技術との取り組みには学ばべき物が多いにあるのではないか。

イスラム以前のギリシャ・ローマでは、哲学や数学は高く評価され盛んであったが、手で物を操作したり作ったりする技術は専ら奴隷の仕事であった。イスラムの勃興は科学技術を生活者の手に取り戻した。アラビア数字をはじめ水利や天文については、サマルカンド郊外の立派な天文台や、イスラムの時代に作られたアルハンブラ宮殿の庭の動力などは使わずにシェラネバダ山脈から引き入れた水を巧みに利用した噴水の今も美しい姿を見ても明らかである。

家庭では水を引き込んで、この水をもちろん飲料水や洗濯にも使うが、噴水を作ったり、水琴窟のように落下させて音を楽しんだり、水を革の袋に入れて置いておくだけでシャーベットを作ったり、実に巧みに科学技術を生活を楽しむ道具として使っていた。

産業革命以降、科学技術は人を殺す道具として使われるようになってしまった。生活者の手に科学技術を取り戻したイスラムの科学技術の貢献は大きい。イスラムが専ら科学技術を生活者のために使い、武器や人を殺す道具として使わなかったところに、60数億の人類が平和に暮らしていく一つの鍵があるのではないかと感じている。

最近、子供の理科離れが問題になっているが、子供に限らず大人も以前は自ら行ったヒューズや電球の交換、水道のこまの修理などちょっとした作業も業者に依頼してしまっている。テレビやオーディオ機器も価格ばかりに着目して、どこで誰がどんな考えで作ったなど考えもしないで既製品を購入しているのではないか。

子供も大人も身近な自然や身の回りの道具を自らの目でよく見て、自らの頭でよく考え、自らの手で触れることが、科学技術をわれわれの手に取り戻す道ではないか。

オーディオはごく最近まで専門メーカーとマニアが互いに刺激しあい、素晴らしい文化や平和に貢献する世界を構築し維持してきていた。一度崩壊した文化を再構築するには何倍ものエネルギーを要することは歴史が教えてくれている。まだ可能性の残っている今こそ、オーディオ文化をわれわれ個々の手に取り戻そうではないか。

(編集委員)